
X・B・S ラブとせつなの場合

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S ラブとせつなの場合

【Nコード】

N3102P

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それは二人のプレゼントから始まった。クリスマス小説第四弾です。

12月24日、クローバータウンストリートはクリスマス一色であった。

ラブ

「これでよしと」

クリスマスパーティの買出しに行くラブとせつな。

せつな

「ねえラブ」

ラブ

「何？せつな」

せつな

「クリスマスって何？」

せつなはラブにクリスマスとは何かを尋ねた。元々ラビリンスにはクリスマスという風習はないからせつなが知らないのも無理はない。ラブ

「せつな、クリスマスってのはね、カップルが愛を語らい、子供がプレゼントを貰い、そして家族で楽しく夕飯を食べてケーキを食べる日みたいなものかな」

せつな

「カップルって・・・もしかして」

ラブ

「ひょっとしてあたしたちみたいだね」

ラブはせつなによりそった。せつなもラブの肩に手を置いた。

ラブ

「さ、帰ろう」

せつな

「うん」

そして12月25日、桃園家でクリスマスパーティが行われた。蒼野家や山吹家といった四つ葉町の住人だけでなく、ウエスターやサウラーなどのパレルワールドの住人も参加していた。

美希

「ねえブッキー」

ブッキー

「何？」

美希

「ラブとせつなは？」

みたところ、会場にはラブとせつながいない。

ブッキー

「あの二人なら、席をはずしたって言うてたよ」

ラブの部屋、そこにはパーティから席をはずしたラブとせつながいた。部屋にはいくつかのご馳走やケーキがあった。

ラブ

「はいせつな、あーん」

せつな

「あーん」

ラブはせつなの口にケーキを運びこんだ。恋人の定番の行為である。せつな

「おいしいわ、ラブ」

ラブ

「ふふっ、よかった」

するとせつなが

せつな

「せれじゃラブもあーん」

ラブ

「あーん」

せつなも自分と同じようにケーキをラブの口に運ぶ。

ラブ

「おいしー。自分で食べるときよりもっとおいしいよ」
せつな

「ふふっ、よかった。ん？ねえラブ、外見て！！」

せつなが外で何かを見つけた。

ラブ

「綺麗。雪だよ雪」

なんと外には当たり一面に雪が降っていたのだ。

ラブ

「外のみんなも見てるかな？」

せつな

「そうね」

するとラブはせつなのほうを見てキスをする。

ラブ

「メリークリスマス、せつな／／／」

せつな

「メリークリスマス、ラブ／／／」

二人はまたしてもキスをした。それをドアの隙間から見ている人影が三人。

あゆみ

「ふふっ、せつちゃんになら、ラブをまかせられそうね。早く孫の顔が見たいわー」

ブッキ

「美希ちゃん、たしか女の子同士でも子供出来たっけ？」

美希

「無理でしょ」

しかしそれでも二人はこれを期にバカップル度数が急上昇した。なお、どこぞの主婦が起こした奇跡によって女性同士の結婚が認められた。

ラブ

「せつな・・・」

せつな

「ラブ・・・」

ラブせつ

「「幸せゲットだよ!」」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3102p/>

X・B・S ラブとせつなの場合

2011年3月13日09時59分発行